

長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

報告者 小坂治善

年月日 平日 = 2008年09月11日(木・晴)
休日 = 2008年09月28日(日・曇)

回数 2007期 = 第16回巡礼・20名(現地参加2名)
2008期 = 第4回巡礼・15名

巡礼寺・順

* 四十九番札所 太梅寺(たいばいじ)

* 本尊・地藏菩薩 * 山号・神護山 * 曹洞宗

* 草創・1046(寛徳三年)

* 創立は真言宗の僧・桓舜が行脚した時に、ここの地勢を見て
霊地であると知り、樹の下で一夜を過ごしたのが始まりでそ
の後衰退、再興を繰り返し、1557(弘治三年)僧・実堂宗梅が曹
洞宗に改宗し太梅寺と改める。

* 裏山に寺の鎮守、満福稲荷神社があります。

* 四十八番札所 報本寺(ほうほんじ)

* 本尊・正観世音菩薩 * 山号・婆娑羅山 * 臨在宗・(建長
寺・末寺 * 草創・1326(嘉暦元年)

* 通称、婆娑羅の山隋院さん

* 創立は真言宗・成就院の僧が、宝蔵院(八十一番札所)へ就く
途中、ここが霊地である事を感じ開創した。その後現在地に
移転したが衰退した、後(年代不明)に僧・松嶺(滋賀県・永源
寺十三世)に随行して来た僧・哲叟が、臨濟宗として再興す
る。

* 「枝垂れ桜」と「おがたま」の木、共に天然記念物です。

* 六十六番札所 岩殿寺(がんでんじ)

* 本尊・薬師如来 * 山号・波次磯山

* 真言宗(般若院・末寺) * 草創・976(貞元二年)

* 本尊・薬師如来像は阿闍梨・丁快作

* 僧・継雲により創立、その後衰退していたのを、1273(文永

十年)僧・丁快が再興する

* 無住寺院の為、御朱印は川向かいの岩殿窯で頂きます。

* 六十七番札所 安楽寺(あんらくじ)

* 本尊・薬師如来 * 山号・太梅山 * 曹洞宗(曹洞院・末寺)

* 草創・不明

* 創立当時は祥安寺といい、真言宗の寺であった後に、1555(弘治元年)曹洞院四世僧・宗菊により曹洞宗に改める。

* 無住寺院の為、御朱印は自分で押せる様になっています、納経料は賽銭箱へ入れる事。

* 六十八番札所 東林寺(とうりんじ)

* 本尊・薬師如来 * 山号・廬岳山 * 曹洞宗(曹洞院・末寺)

* 草創・1592-96(文禄年間)

* 本尊・薬師如来像は鎌倉時代中期の慶派仏師の作(修復済)

* 僧・龍山が創立した小庵を、後に、1600(慶長五年)曹洞院八世僧・天策により堂を建て一寺とした

* 六十一番札所 法泉寺(ほうせんじ)

* 本尊・大日如来 * 山号・臥龍山 * 曹洞宗(最福寺・末寺)

* 草創・1244(寛文二年)

* 開創当初は真言宗の小庵であった、1662(寛文二年)最福寺の僧・宝山順が曹洞宗の寺として再興とある。

* 六十番札所 善福寺(ぜんぷくじ)

* 本尊・大日如来 * 山号・龍燈山 * 真言宗(般若院・末寺)

* 草創・不明

* 開創年代は不明で、1628(寛永五年)没の僧・了快が再興とある。1830-44(天保年間)僧・心蓮により、本堂、庫裏を再建する。

距離

約2Km+約3Km+約1Km+約0.5Km+約1Km+約3Km
=10.5Km+3Km(善福寺)

タイム 下土狩 5 : 3 0 2階滝 P7 : 0 0 - 龍門院 8 : 0 0 - 太梅寺 8 : 3 0 報本寺 1 0 : 0 0 - バスー最福寺 岩殿寺 1 1 : 5 0 - 安楽寺 1 2 : 2 5 (昼食・昼寝) - 東林寺 1 3 : 5 0 - 法泉寺 1 5 : 2 0 (平日は、妻良・善福寺まで 1 6 : 0 0 着) - 銀の湯 1 6 : 1 0 着 ~ 1 7 : 3 0 発 下土狩 2 0 : 0 0

温泉 下賀茂「銀の湯」(9 0 0 × 団体割引 0 . 8 = 7 2 0)

その他 法話 = 報本寺 (平日なし、休日のみ 2 0 0 0)

引用文 三島図書館所蔵資料 (植物図鑑・南伊豆町文化財めぐり) 関連 HP

曇り空の下、2ヶ月ぶりの霊場めぐりスタート。6 : 2 5 分、大仁橋・熊坂公園を通過する。5 0 年前の狩野川台風の惨禍を思い出す (胸の内でしばし黙祷する) 修善寺の横瀬橋を横に見て秋の気配が漂い始めた山間に入っていく。

7 : 0 0 最初の休憩地 (2 階滝 P) に到着。路傍のススキの穂が目立つようになるが箱根に比べ穂が小さく見えるのはなぜだろうか？

そして高度が下がるにつれて路肩、田圃のあぜ道等に彼岸花の赤が目鮮やかに映る。7 : 3 5、TさんしばらくしてSさんが乗車し20人となる。

「おふくろ饅頭」の店でトイレ休憩後、8 : 0 0 スタート地点の龍門院に到着。準備体操もそこそこに出発。爽やかな空気と豊かな緑の中を歩いていく。体が目覚めてくるのを実感する。

8 : 4 0 台太梅寺着。長い階段を上がって行くと、本堂右手前の古木が目につく。地上 1 . 5 m 位のところから 8 本に分かれて空に向かって伸びている (末広がり意識したのだろうか・・・1本切断した痕あり)

さらにその右手の池に「ししおどし」があり、わびしい音が間遠うに響く山門をくぐった。

境内の右手に子育て地蔵がある。下田から参加のSさんの説明を聞く。下田出身の小川清助作とのこと 霊験あらたかとの事にて近隣はもとより遠く訪ねてくる人が多いという

9 : 0 0 太梅寺を出発してすぐの左手に 諏訪神社があり境内に樹齢 4 0 0 年の大公孫樹の木がたわわに実をつけていた 町



子育て地蔵さま

の天然記念物との標識があった加増野（かぞうの）地区の川にかかる橋の上で前方のメンバーが歓声をあげた近づいてみると川端の休耕田の半分近くが彼岸花の赤で埋め尽くされていた。

10：00 報本寺着。山門をくぐると直ぐ左手に枝垂桜の古木（樹齢250年）ある開花の時期に合わせて 各地より沢山の見物客で賑わうとのこと。

さらに奥に進むと左手に県指定の天然記念物のおがたま（小賀玉）の巨木（樹齢300年）があった。

読経後住職よりお話を伺う。1412年の開山（京都の僧により）当初真言宗であったが後に臨済宗となる。ご本尊の正観音は江戸中期の作とのこと。

場所も現在地より北西の婆沙羅山（標高600m）の麓にあったという。住職の子息がSさんの教え子であったとのこと。さらにお話は続く。子息の生命に関わる事態に直面して、強く感じた事が3つあるとして・・・。

人間は自然治癒力を持っている。

人にはそれぞれに天命があると思うようになった。

人は何かに守られて生きている。

お話の後、美味しいお饅頭・最中・お茶の接待を受けながら住職を囲む会話が弾む。ご本尊の正観音さまは、願成就院より遷座したとのこと。そして住職を中にしての記念撮影。

見送りを受けて寺を後にする。10：45バス乗車。途中「おふくろまんじゅう」の店でおまんじゅうのほか、地元産の野菜等のお土産をゲット。一路岩殿寺へ一条川に沿ってバスは走る。車窓からも彼岸花の赤が遠き近きに目立つ。生命力の強い草だと思う。

浅瀬に鮎つりの人が転々と立っている。10人を超える。鮎つり場として有名な車中でSさん、Gさんのお話を伺う。

Sさんは、案山子には弓矢をつけたものが多く見られるが、ここ加増野地区では案山子にも弓矢は持たせないという。

その昔、農民が鹿を弓で射たところ近づいて見ると、馬でありそれも殿様のものであったという。

農民は恐縮してそれ以来、現在にいたるまで弓矢を使っていないとのこと。

Gさんは、報本寺の北西の松崎町との



報本寺

の境にバサラヤマ（婆沙羅山）とバサラという地名があるが、バサラの意味は金剛（杵）で「素晴らしい」の意とのこと。追加説明をすると・・・。

- ・ 婆沙羅と書いた場合は 跋折羅からきた言葉で 南北朝時代の流行語で遠慮なく振舞う事 派手に見栄を張ることの意。
- ・ こんごう（しょ）の意味の場合は 縛日羅 跋折羅 伐折羅と書く。その場合の意は インドの武器で三つまたの槍 金剛杵（こんごうしょ）。
- ・ 独鈷 三鈷 五鈷の類 煩悩や外部からの魔障を破砕する力の象徴の意。ちなみに 修善寺の独鈷の湯の独鈷はこれからきている。

最福寺付近で下車 11：30。岩殿寺に向けて約 10 分。道路沿いのがけに沢山の岩松が生えていた。雨がなかったためか、枯れたように丸くなっている。岩松のために雨よ降れと祈る（ただし 巡礼が終わってからですよと心の中でつぶやきながら・・・？）

11：40 岩殿寺着。無人寺であるため、道路の向かい側にある「岩殿寺窯」にてご朱印を受ける。沢山の焼き物が展示されていた。土は各地から取り寄せているが、釉薬（ゆうやく）は地元の材料を使用しているとのこと。また焼き物作りの体験も出来るとのこと。

すっかり、寂れた無人のお堂の前で立ったまま読経。寺のいわれを書いた古い立て札があるので、それとわかるが・・・。時の移ろい（長さ）に寂寥感を覚える。

12：10 岩殿寺発。直ぐにとうかいどう（陶街道 = 県道 14 号線的一条 ~ 天神原のこと）に出る。

12：25。安楽寺着（無住寺）境内に入ると銀杏のにおいがする。見上げると沢山の実が少し黄色味帯びた葉の下についている。落ちている実もあった本堂の窓を開けて空気の入替えをする。読経のあと少し遅めの昼食をとるテーブルを囲んで会話も弾む。

各自持参のおかず・果物・お菓子など廻しあう。疲れが癒される。食事後思い思いの格好でお昼寝タイム z z z z・・・。建物は比較的新しい。無住は勿体ないの声も。

13：50 東林寺着。講師が話しに夢中で、また入口に標識がないため通り過ぎてしまうハプニング発生。寺庭さん（住職の奥さんのこと。寺の家庭を守るといふ事から）とおもわれる女性に対応してくれた。住職は総持寺で修行されたとの事。

帰り際に頂いた曹洞宗のしおりより「同事は、薩埵の行願なり。ただまさにやはらかなる容顔をもて、一切にむかふべし」

- ・ 同事 違わない事 自分にも 他にも違わないそういう生き方を実践すること
- ・ 薩埵 菩薩のこと
- ・ 行願（ぎょうがん） 行は身の行い 願は心の誓願のこと

即ち、お釈迦さまにならい、いつでも、ひたすらに、優しくて穏やかな物腰そして、和む顔ですべてに接していきましょうの意。

東林寺 14:00 発。相変わらず休耕田が目立つそしてそこを占拠しつつある彼岸花も山道に差し掛かると前方で キャーの声そして列を乱して横に飛び跳ねた。近づいてみると大きなヤマカガシの死骸だった。

稲架かけの稲を脱穀している家族を撮影 妙齡(?)の女性から声がかかる「女優さんになれるとは思ってもいなかった！」 一同爆笑

さらにきつい上り坂が続く。ようやく登りきって少し下ったところで小休止。少し歩くと一面の稲穂の海。この辺りはまだ刈り入れが終わっていない



一家総出の稲刈り



東林寺

15:17 法泉寺着。無住のため、近在の方がお寺の管理（後朱印も含めて）一切をされているとのこと。現在、檀家の数は40軒。本堂の欄間の内外両方に素晴らしい絵がある。数年前に表装しなおしたところ、昔と変わらぬと思えるほどに蘇ったとのこと。

16:10 銀の湯着。汗を流した後、途中で仕入れたもので恒例(?)の一杯歓談。ここでSTさんから巡礼の際、寺に納める札のことについてお話を伺う。

巡礼の回数

25回未満 白い札

25回以上 銀色
 50回以上 金色
 100回以上 錦 の納め札がいただけるとの事

17:30 銀の湯発。本日の感想を聞きながら天城峠・修善寺・三島を経て20:00 下土狩着。天(天候)・地(風景)・人(出会った人、メンバー)に恵まれた一日でした。ありがとうございました。合掌

ご参考

○ 無財の七施の表現の違い

	眼施	慈眼施
	和顔施	和顔施
	言辞施	愛護施
保春寺	身施	安楽寺 捨身施
	心施	心慮施
	床座施	床座施
	房舎施	房舎施

○ おがたまのき(小賀玉の木=もくれん科)

本州関東から琉球の暖地の山地に生え、神社の境内などに栽植される常緑高木多く分枝し高さ16m位。葉は良く茂り互生し6~10cm径3cm位の花をつける和名は招霊(おきたま)の転化。枝を神前に供えて神霊を招禱(おき)たてまつるというのに基づく。また小香(おか)と実が玉に似ているからおかだまさかきの本物はこの木という説もある。材は、床柱・家具・楽器にする。

○ ひがんばん(彼岸花。別名、曼珠沙華・ハミズハナミズ(葉見ず花見ず)しびとはな等1000余りの方言名があるという)

- ・ 人里の路傍 田畑の畦などに生える中国原産の多年草。鱗茎(りんけい)にアルカイド系のリコリンという毒がある。
- ・ 秋の彼岸頃に咲き出すので彼岸花の和名になった曼珠沙華の名は古くから詩歌に登場している。梵語で曼珠沙華(まんじゅさか)は天上の華、赤い花のことである。法華経の摩訶曼陀羅華曼珠沙華(まかまんだらけまんじゅしゃげ)からきている。
- ・ 土葬の墓を野獣から守るために墓地に植えられていた事からしびとはな(京都)じごくばな(備前)ゆうれいばな(上総)などの名前がある。
- ・ 漢名の石蒜は球根の形がにんにくに似ている事から。
- ・ 英語名 RED SPIDER LILY は赤い蜘蛛の形をした百合の意で花の形から

きている 欧米では観賞用として人気がある。

- ・ 球根からは極めて良質のでん粉がとれる。これで作った糊は虫に食われないため屏風やふすまの下張りなど表具細工に使われていた。書籍にはこの粉末を入れて虫除けにした。
- ・ モグラ。野鼠を防ぐ為田の畦や土手などに栽植。救荒作物となっている。
- ・ 食用のための毒抜きは、鱗茎を細かく砕き一昼夜以上流水に浸す。

○ 小野塚(小町塚)(下小野地区)

上小野口から左折して100mほどの所に小町橋があります。その右側10mぐらいの崖の上の草むらに小さな祠があって小野塚と呼ばれています。聖武天皇の740年(天平12)に藤原広嗣の乱がありました。この乱に関係した小野朝臣東人が伊豆に流されたことが「続日本紀」という本に書かれています。東人の娘は小町といわれ「浮き草をかき分け見れば 底の月ここにありとは 誰も知るらん(誰か知らなん)」という歌をよんで朝廷に差し出したところ父は許され、自らは「東小町」という称号を頂いたといわれます。小野氏が住んでいたところから、下小野・上小野の地名がおこったといわれています。このほか、南伊豆町には京都にちなんだ地名がある。(下賀茂・上賀茂・加納・一条・二条など)

また、下小野地区には、地図を作成する時に重要な三角点に「小町」という名前がついた、4等3角点があります。三角点の点名は測量者が好きな名前をつけていいとの事です。(南伊豆町の文化財めぐりより)

報本寺ご本尊



報本寺 富永住職





平日巡礼
9月11日

東林寺



休日巡礼
9月28日

報本寺